

## 防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」

### 【団体設立】

“今は決して「震災後」ではなく、次の震災がおきる「震災前」なんだ。遠く離れた地へ飛ぶカモメのように、閉上の空から震災の教訓を届けたい。” そういう思いを込めて平成 26 年 7 月に立ち上げたのが防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」です。現在、会員数は 20 名。閉上の「地」や「人」に縁の深いメンバーで構成されています。

会長の佐竹悦子さんは、震災の教訓から生活の中に自分の事として意識する自主防災教育の大切さを強く訴えます。また、「ゆりあげかもめ」副代表の丹野祐子さんは、自身の震災体験を伝える「語り部」の活動もしています。風化し会話にも出なくなるとされる 30 年後の非常時には、犠牲者を 0 にしたいという願いがあり日々の活動にも力が入ります。



防災学校開催の様子

### 【防災教育のすすめ】

団体が主催する「防災学校」ではサラダ油、アルミホイル、空ビンなどを使って作る非常灯「ほのぼのあかり」や、空き缶などを活用し御飯が炊ける「簡易コンロ」の手作り体験セミナーを実施しています。地域のお祭りにも参加し、名取市消防署の皆さんと消火活動体験会を行い大人から子供まで楽しく学ぶ機会も共有しました。「大震災を経験したからこそ伝えられる命の大切さと、生き抜くための知恵を、防災教育を通して特別ではない事にしていきたい。そしてある日、物が全て無くなった時でも命があれば何とかなる。いざ！という時に命を守るには普段からの防災意識と訓練を重ねる事が要になる」と、県内外を問わず多くの方々に伝えています。幼稚園、小中学校、さらに高校からの講演依頼にも応え、子供たちにも積極的に自主防災・減災の大切さを提唱しています。

ほのぼのあかり



簡易コンロ



### 【自主防災マニュアル作成】

震災前、地域の防災訓練に参加した際、佐竹会長が所長を務める名取市閉上保育所が海沿いにあり、津波に対して海拔 0メートルが 7 キロも続く危機的な状況であることを知りました。これをきっかけに保育所職員の足で避難経路などを一から見直す自主防災マニュアルを作り始めました。まず行政から示されている避難指定場所よりも近くで安全に避難できる場所の検討、避難経路に通行危険箇所がないかの確認、信号機の数、交通渋滞を避ける抜け道と徒歩での近道を探索しました。そうして保育所独自の自主防災マニュアルが完成しました。震災当日はこのマニュアルを忠実に遂行した迅速な避難により保育所に居た誰一人として津波の犠牲にならなかった事実は、自主防災が命を守るという事に直結している証です。

自分の居場所を自分で確認する自主防災マニュアル作成はぜひ家庭でも取り組んで欲しいと語ります。教訓から学んだ知識は、安心感と心の余裕をつくります。独自の防災マニュアルを持つことが当たり前の社会を目指して「ゆりあげかもめ」は、会員一人ひとりも防災・減災の知識を深めながら広げ伝え続けていきます。

防災研修会参加の様子



防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」

〒981-1232 名取市大手町 5 丁目 6-1

名取市市民活動支援センター事務室 3

【連絡先】

E-mail : yuriagekamome@gmail.com